

Disclosure 2025

(令和7年度上半期)



CONTENTS

ごあいさつ	1
JA兵庫南の概要	1
1. 経営理念	2
2. 経営方針	3
3. 協同活動ハイライト	6
4. 農業振興活動	8
5. 地域貢献情報	9
6. 事業の概況（令和7年度上半期）	11
（1）事業実績の推移	12
（2）有価証券の時価情報	15
（3）金銭の信託の時価情報	15
（4）預かり資産の状況	15
（5）自己資本比率（単体）	15
7. 農協法に基づく開示債権の状況及び金融再生法開示 債権区分に基づく債権の保全状況	16

ごあいさつ

『「安心」「笑顔」の種を蒔き、
未来へ「つながる」実をつくろう』

組合員の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

J A兵庫南は、情報開示を通じて経営の透明性を高めるとともに、当J Aに対するご理解を一層深めていただくために、当J Aの主な事業の内容や組織概要、経営の内容などについて、利用者の皆様にわかりやすくまとめた「ディスクローチャー誌 2025 年度（上半期）」を作成いたしました。

当J Aの事業をさらにご利用いただくための一助として、皆様に是非ご一読いただきますようお願い申し上げます。

組合員の皆様のますますのご繁栄を祈念申し上げ、ごあいさつといたします。

令和 7 年 1 2 月

兵庫南農業協同組合
代表理事組合長 野村 隆幸

● J A兵庫南の概要 ●

名称：	兵庫南農業協同組合
代表理事組合長：	野村 隆幸
設立：	平成11年4月
本店所在地：	兵庫県加古川市加古川町寺家町621番地
支店等：	支店 15 支店
：	事業所 25 か所
役員数：	34 人
職員数：	正職員 348 人
：	臨時・嘱託 183 人
：	パート 100 人
：	合計 631 人
組合員数：	正組合員 13,884 人
：	准組合員 52,858 人
：	合計 66,742 人
出資金：	3,632 百万円
総資産：	715,196 百万円

上記の数値は令和 7 年 9 月末現在です。

1. 経営理念

1. 経営理念

『組合員と共に繁栄し、安心・安全・安定を共有するＪＡづくりと、
人・農業・自然が共生できる地域社会づくりをめざします』

- 経済の国際化にともなう環境変化や農業をとりまく環境の変化、さらに高齢化社会の到来など、将来に対する不安が募り不安定な状況が続いています。このような時代にあってＪＡは、組合員と共に繁栄し、「安心」して「安全」な商品やサービスを「安定」的に利用していただくための経営努力を続けてまいります。
- 農業は、大地、水、空気、太陽など自然の恩恵を受けて成り立つ産業です。新鮮で安全な農産物の供給、人とのふれあいを大切に、人間関係を深め地域社会への貢献を通じて、人・農業・自然が共生できる地域社会づくりに取り組んでいきます。

2. メインテーマ

『「安心」「笑顔」の種を蒔き、
未来へ「つながる」実をつくろう』

3. 基本方針

- Ⅰ『安心して続けられる農業の実現』（地域営農振興計画）
- Ⅱ『笑顔あふれる地域づくり』
- Ⅲ『次代へつながる経営改革の実践』

4. 職員行動規範

『感謝・挑戦・自律』

常に感謝の念を持ち、何事にもチャレンジの姿勢を忘れず、
自ら考え責任ある行動をします。



2. 経営方針

●基本方針（令和7年度）

異常気象による生産環境の不安定化や物価上昇等による農業生産資材の高止まり等、依然として先行きは不透明な状況が続いています。また、マイナス金利政策の解除や価格競争の激化等により社会・経済環境が大きく変化するなど、JAを取り巻く環境は厳しさを増し、大きく変化しています。

令和6年5月には「食料・農業・農村基本法」が制定から四半世紀を経てはじめて改正されました。日本国内における食料安全保障の重要性が再認識され、持続可能な農業の推進、食料自給率の向上対応など、日本農業は新たな転換期を迎えたと言えます。

また、全国的にJA組合員の高齢化が進むとともに、兵庫県では正組合員の減少と准組合員の増加傾向が続く中、令和3年度をピークに組合員総数が減少に転じています。

当JAにおいても、少子高齢化による人口減少は組合員構成に影響を及ぼし、70歳以上の組合員が46%を占める状況となっています。若年層の組合員加入を勧めるため、令和4年度より組合員出産祝金制度を創設し、新規組合員の加入促進に努め、全国的に組合員数が減少する中、令和6年度は全体で1,637名の組合員増加を図ることができました。

令和6年11月に開催された第36回兵庫県JA大会では、これら環境変化と課題を踏まえ①JAの総合力の発揮、②デジタル化への対応、③組合員・地域を支える人材の育成の3点を重点課題と整理し、スローガンとして「共に育む、地域の絆と農業の未来 ～変化する時代における総合力の発揮～」が設定されました。

当JAでは、第9次中期経営計画に基づき、利用者懇談会、青壮年部や女性会役員と常勤役員との対話をはじめ、常勤役員が営農経済部門職員とペアを組み、担い手農家を個別に訪問して直接ご意見やご要望をお聞きするなど、組合員との対話を通じて、自己改革に取り組んでまいりました。

今後も多様な組合員の声をJA運営に反映し、地域農業の振興に努めるとともに、将来にわたって持続可能な経営基盤を確立・強化し、地域に根ざしたJAをめざします。

●営農経済事業方針●

第9次地域営農振興計画の最終年度として、自己改革の実践方針である「農業者の所得増大」と「農業生産の拡大」及び、持続可能な事業実施体制の構築に向け「営農経済事業成長効率化プログラム」の実践に取り組みます。

主食用米は、計画的な集荷に努め全農への有利販売及び直売所を中心に直接販売を進めます。また、麦では実需者からの要望を受け面積拡大に取り組み、販売拡大に努めます。野菜等では、特産物としてのブランド力を活かし、環境変化に合わせた販売戦略により、新たな販売先の開拓を図ります。直売所については、新鮮な地元産野菜の充実を図り、利用者の声を取り入れた魅力ある店舗づくりを実施します。

営農渉外担当者の訪問活動により、担い手農家・営農組織・集落への情報提供や相談機能の充実に努め、持続可能な農業を支えるよう取り組みます。また、各営農経済センターでは、相談窓口とし利用者の満足度向上に努めます。

●農業経営事業方針●

JA管内では、人口減少や高齢化が進み農業就業人口が減少する中、担い手の確保・育成に向けた取り組みが重要となります。このため、JAでは施設栽培を通じて、園芸作物の普及拡大を図るために農業経営に取り組み、農業者の所得増大と産地振興に努めます。また、にじいろ果樹園を活用し、直売所で不足している果樹類については、栽培講習会を開催し生産者の拡大に努めます。

●生活指導事業方針●

第9次中期経営計画最終年度として2つめの基本方針である「笑顔あふれる地域づくり」を実現していくため、学校・教育現場との連携を強化し、地域農業の役割を伝える食農教育活動の充実に努めます。また、農畜産物の情報や地域話題をはじめ、JA事業の情報を提供することで、地域農業の応援団づくりと地域の活性化に積極的に取り組みます。

●信用事業方針●

市場や環境の変化を見据え、組合員・利用者のニーズに寄り添った活動に取り組みます。渉外体制では総合複合渉外として「出向くワンストップ」による相談活動で組合員・利用者の利便性を高めます。多様化する相談業務ではJAトータルサポートセンターを活用し、多様なニーズに応えるサービスの提供に取り組みます。また、持続的な経営を可能とするために収益性確保に取り組み、経営基盤の強化と組織の健全性を維持していきます。

環境の変化に対応し投資信託及び融資の事務管理体制の充実に努めます。モニタリング体制の強化による事務処理の適正化、不祥事や不適切な契約の撲滅に向けた教育・研修体制を構築します。

●共済事業方針●

市場や環境の変化を見据え、組合員・利用者のニーズに寄り添った活動に取り組み、「安心」と「安全」をお届けします。「ひと・いえ・くるま」の『3Q活動』によるアフターフォローや普及活動を通じて、組合員・利用者の満足度を高めシェア拡大に取り組みます。

また、コンプライアンスに対する教育・研修を充実させるとともに、モニタリング体制の強化による事務処理の適正化、不祥事や不適切な契約の撲滅に向けた教育・研修体制を構築します。支店における共済窓口業務の効率化に取り組みます。大規模災害を想定し、共済査定体制を整えます。

●経営管理方針●

国際情勢不安等を背景に、JAの事業環境が大きく変化することが見込まれる中、環境変化に対して何らかの対策を講じないまま推移した場合の将来の収支予測である成り行きのシミュレーションを行ったところ、5年後には現状と比べて事業利益が減少する見通しとなりました。そのような状況を踏まえ、持続可能な収益性や将来にわたるJA経営の健全性を確保する観点から、以下の取り組みを通じて、経営基盤の確立・強化を進めてまいります。

信用事業の収支対策として、貸出金残高・有価証券残高の伸長を図り自己運用力の強化に努めます。また、政策金利の上昇に伴う他行金利の動向を注視した金利設定による貯金残高の確保、新規貸出金の伸長に努める一方で、相談機能の強化による流出防止に努めます。さらに、年金受給者イベント等を通じた年金・給与振込者の増加による貯金の集まる仕組みづくりに取り組みます。共済事業については、保有ポイントの減少を抑え、組合員の保障充実に取り組みます。営農経済事業では、持続可能な事業実施体制に向け成長効率化プログラムの実践に取り組みます。

JA兵庫南の管内人口が減少する中、地域の農業者や担い手農家の減少も進んでいます。地域農業を支えていくためにも、JA事業を利用する准組合員はJA運営からみても重要です。将来にわたって、持続可能なJA経営を行うためには、担い手をはじめとした正組合員はもちろんのこと、JA利用者懇談会などを通じて准組合員の意見をJA運営に反映していきます。

また、女性の意見を積極的に反映していくため、女性総代比率・女性役員比率の向上に取り組みます。

事業活動トピックス

4月

- ・ 新入職員入組式
- ・ にじいろふぁ～みんで「いなみトマト祭り」開催
- ・ JA兵庫南スタートダッシュ大会を開催
- ・ 第27回JA兵庫南女性会総会を開催
- ・ 「六条大麦フェス2025」を開催
- ・ RTK基地局を設置



新入職員入組式



JA 兵庫南女性会総会

5月

- ・ 管内小学生たちが農協施設を社会科見学
- ・ JA兵庫南涉外決起大会を開催
- ・ 「にじいろミュージックフェスティバル」を開催
- ・ 新品種米「コ・ノ・ホ・シ」一般栽培開始



農協施設の社会科見学

6月

- ・ ちゃぐりんスクール開校式
- ・ 「第10回JA兵庫南組合長杯」小学生ソフトボール大会
- ・ スイートモーニング・いなみ野メロン販売開始
- ・ 第26回通常総代会（コスモホール）
- ・ 「JA兵庫南ふぁ～みん杯」稲美町ジュニアソフトボール大会



通常総代会

7月

- ・ 「1on1ミーティング」を開始
- ・ 「野菜ウニ」試食会
- ・ 第1回JA利用者懇談会
- ・ 二見支店で「町ぐるみ健診」開催
- ・ いなみ朝市38周年大売出し
- ・ 職員向けの共済仕組み勉強会開催



ちゃぐりんスクール開校



利用者懇談会

8月

- ・ 第2回JA利用者懇談会
- ・ ちゃぐりんスクールで加古川和牛ツアー開催
- ・ 鉄鋼スラグを利用した土づくり勉強会を開催
- ・ 特産品「志方いちじく」が初出荷
- ・ 第10次中期経営計画策定会議
- ・ にじいろふぁ～みんでふぁ～みん感謝祭in稲美を開催
- ・ 「JA兵庫南組合長杯」高砂市スポーツ少年団軟式野球大会



ふぁ～みん感謝祭



SUGOJYO 総踊り大会

9月

- ・ JA女性会SUGOJYO総踊り大会
- ・ ふぁ～みん男ディカレッシ開講式
- ・ 第3回JA利用者懇談会
- ・ 二見支店デジタルサイネージ除幕式
- ・ ふぁ～みんレディースカレッシ開講式
- ・ 神野支店で「親子金融教室」を開催
- ・ 厚生労働大臣より「トライくるみん」認定



二見支店
デジタルサイネージ除幕式

3. 協同活動ハイライト（令和7年度上半期）

「安心」「笑顔」の種を蒔き、 未来へ「つながる」実をつくろう

このメインテーマには、組合員をはじめ地域の皆様から、「JA兵庫南があって良かった！」と喜んでいただける協同組合をめざして全役職員が一丸となって業務に取り組む意志を込めています。令和7年度上半期の主な取り組み状況を紹介します。

I. 安心して続けられる農業の実現（地域営農振興計画）

重点品目を中心とした農産物の安定的な販売

米価格の高止まりが続く、依然として情勢は不安定です。JA兵庫南では、生産者の方から集荷したお米の一部を直売米として確保し、地域の皆様へ直接お届けできるよう直売所での販促活動などに取り組んできました。今後も、地元のお米を皆様にお届けする地産地消を振興してまいります。



みどりの食料システム戦略に沿った化学肥料削減への取り組み

みどりの食料システム戦略に沿った化学肥料削減への取り組みとして、生産農家の協力の下、ピーナツ皮やみりんカスを混ぜた粗穀堆肥の製造試験を実施しました。製造した堆肥については春野菜に向けて実証実験を行う予定です。

また、ヘアリーベッチやれんげなどの緑肥を活用した有機肥料による農作物づくりにも引き続き取り組んでおり、栽培面積を確保しています。

環境に配慮した肥料を通じて、これからも地球に優しい農業を実践してまいります。

	ヘアリー ベッチ	れんげ	合計
栽培面積	94.8ha	44.2ha	139.0ha

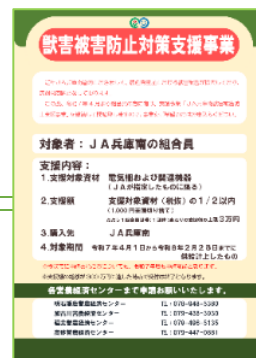
組合員の高齢化、労働力不足に対する取り組み

地域農家が直面する労働力や後継者不足の問題に対して、地域の人材とのマッチングを進めています。具体的には、農業求人サイトの利用拡充を図り、農業関連の労働者不足を補うために、JA関係の募集も含めた農業関連求人の掲載件数は66件に達しました。

また、援農ボランティアの取り組みについては、延べ32名のボランティアが登録されています。これらの活動を通じて、地域農業の持続可能な発展に向けた人材確保に努めています。

鳥獣害対策の推進

管内において畑の農作物を狙う鳥獣害が多発しており、被害を抑えるため、組合員の要望に即した対策資材の予約を受け付けました。電気柵および関連機器の購入金額の半額を助成する「獣害被害防止対策支援事業」も組合員に向けて引き続き提供し、組合員の獣害対策を後押ししていきます。



安心・安全な食の提供

農産物の安心・安全を図るため、直売所出荷登録生産者には4月から5月にかけて農業講習会を実施いたしました。参加できなかった出荷者に対しては別途講習会を行うよう、全員の受講を徹底しています。また、ピックアップした加工品出荷者へは訪問点検を行い、衛生管理に努めています。

営農指導体制の確立・強化

営農渉外活動に関しては昨年度の情勢を受け、米集荷に向けた声掛けを中心として、適期営農指導、情報提供といった訪問活動を行いました。

また、成長効率化プログラムを通じて営農渉外の体制整備について協議しました。営農指導強化プランの見直しや育成プランの確立を通じて出向く営農指導体制を強化し、営農相談窓口の充実を図ります。

Ⅱ. 笑顔あふれる地域づくり

次世代・若年層の組合員との関係強化

地域の学校や団体が行う食育活動や農業体験、環境学習などを支援し、次世代を担う子どもたちに「食」と「農」の大切さを伝えることを目的とした「ふぁ～みん食農教育支援金」において、本年度も新規団体5団体を含めた63団体に申請いただいています。前年度に引き続き活動을続け、農業を身近に感じていただけるような体験の場をこれからも作っていきます。

学校との連携

高校生の視点から特産品の活用やJAの課題を探究してもらう「探究学習アドバイザー」として、加古川南高等学校の皆様にご協力いただき、課題解決に向けて協議しました。

また、摂南大学の学生の方々にも、施設見学や生産者視察を通じて、これからの農業について考えていただきました。今後も次世代が農業に関心を持ち、関わる機会を増やしていきます。



組合員組織活動の活性化と連携強化

准組合員の意思反映のための利用者懇談会を継続して開催しています。

信頼とつながり強化に向けた情報発信

広報誌「ふぁ～みん」の四季旬菜コーナーが動画になりました。JA兵庫南のYoutubeチャンネルでご視聴いただけます。作る人と食べる人をつなぐことを目標に、季節の農産物と生産者を紹介しています。

また、Instagramでも旬の野菜の紹介のほか、直売所の様子なども配信しています。ぜひ右記二次元コードよりアクセスしてください。



Ⅲ. 次代へつながる経営改革の実践

組合員の増加

正組合員加入実績は167名、准組合員加入実績は1,253名となり、9月末の組合員総数は66,742名です。期首65,939名から803名増加いたしました。

組合員との対話強化

生産者の意見や要望を伺いながら情報提供を行うことを目的に、常勤役員と経済担当職員による担い手訪問を行っています。対話を通じて得られた情報を元に、よりよい農協運営を構築していきます。

デジタル技術の活用

Wi-Fiを全支店に設置し、Web面談ができる環境を整えています。共済事業ではオンライン面談が完全導入されており、いずれ信用事業などの他事業でも利用できるよう対応中です。

優秀な人材確保のための雇用施策

昨年度大きく見直した新ルールのもとで、新たな登用試験・役員面接を実施し、いままで大きく貢献していただいた契約職員に対し、正職員登用を行っています。仕事への取り組み状況を処遇へ反映できる仕組みづくりを行い、職員一人ひとりの成長と組織の強みを活かして、利用者へのサービス向上に努めています。

ご案内

イベント、商品紹介、事業等については、当JAの広報誌「ふぁ～みん」やホームページでもご案内しています。

ホームページアドレス <http://www.ja-hyogominami.com/>

ホームページは
こちらから



4. 農業振興活動

JA兵庫南は、「農業者の所得増大」や「農業生産の拡大」を達成するため地域農業の振興を図るとともに、農業を通じた豊かな地域社会の発展をめざして、次のような農業振興活動に取り組んでいます。

1. 安全・安心な農産物づくりへの取り組み

消費者に安全・安心な農産物を提供するため、JAで荷受する米・麦・大豆・野菜などの全出荷者に生産日誌記帳ノート等を提出していただき、農薬使用における適正使用の徹底を図っています。



新品種米「コ・ノ・ホ・シ」
田植え

2. 集落営農組織の育成・支援

米・麦・大豆を作付けする営農組合等の担い手への農業所得確保に向け、栽培指導の強化に努めています。また、スマート農業の研究や実践といった取り組みをしています。



JA グループ兵庫×Kubota
RTK 基地局開局

3. 地産地消の取り組み

管内に8店舗の農産物直売所（ふぁ～みんSHOP）を設置し、新鮮で安全・安心な地元農産物を供給し、地域の消費者に喜んでいただける店舗づくりをめざしています。

農家の生産力を向上させて直売所への出荷量を増やすための講習会や、新規農家の育成や施設園芸の面積拡大をめざして、補助事業の活用やハウス導入経費の一部をJAが助成する取り組みをしています。



にじいろふぁ～みん
「いなみトマト祭り」

4. 農業とのふれあい活動

“「安心」「笑顔」の種を蒔き、未来へ「つながる」実をつくろう”をメインテーマに、児童を対象に農業体験を開催し農業への理解を深めました。また、「ふぁ～みん食農教育支援金」により各種団体の食農活動を支援しています。



青壮年部
さつまいも苗植え付け体験

5. 食育の取り組み

ちゃぐりんスクールの開催ならびに、水稻や野菜の植付・収穫体験イベント・料理教室などを各地で開催することにより消費者とのふれあい活動を実施し、農業の理解を深め広げる活動に取り組んでいます。



ふれあいイベント
玉ねぎ収穫体験

5. 地域貢献情報

JA兵庫南は、協同組合活動の原点である「組合員の営農と暮らし」を守り、地域農業の振興に努めるとともに、地域社会の発展に貢献するため様々な活動を展開しています。

1. 社会貢献活動

① 環境問題への取り組み状況

- ・持続可能な農業の確立に向け、(株)神戸製鋼加古川製鉄所の鉱さい（製鉄工程で産出される副産物）を原料とした肥料（ケイカル、転炉さい）の勉強会を開催しました。
- ・省エネルギーを実践するため、「クールビズ」の実施に取り組んでいます。
- ・農業用廃プラスチック・不要農薬の回収を実施しています。

② 各種募金活動・公益団体などへの寄付を行っています。

③ 献血活動の実施



鉄鋼スラグを利用した
土づくり勉強会



募金活動



献血（日本赤十字社と連携）



2. 地域貢献活動

（１）地域からの資金調達の状況

① 貯金残高（令和7年9月末現在）

（単位：百万円）

種 類	残 高
当座性	256,297
定期性	420,991
小 計	677,289
譲渡性	—
合 計	677,289

（２）地域への資金供給の状況

① 貸出金残高（令和7年9月末現在）

（単位：百万円）

種 類	残 高
農業近代化資金	—
その他制度資金	1
農業関連融資	416
事業関連融資	6,264
住宅関連融資	176,842
生活関連融資	5,072
その他	230
合 計	188,827

（３）文化的・社会的貢献に関する事項

① 福祉活動

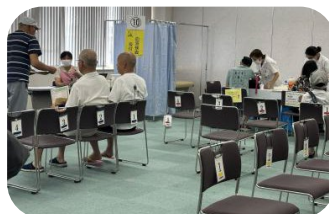
組合員・地域住民を対象とした健康診断活動、高齢者福祉活動、地域助け合い活動に取り組んでいます。

② 職員の地域貢献への参加

地域の清掃活動など社会活動に積極的に参加し、地域に根ざした活動を実践しています。



清掃活動



町ぐるみ健診



地元小学校へちゃぐりん寄贈

3. 地域密着型金融への取り組み

(中小企業等の経営の改善及び地域の活性化のための取り組み状況を含む)

(1) 農業者等の経営支援に関する取り組み

当JAは、「組合員と共に繁栄し、安心・安全・安定を共有するJAづくりと、人・農業・自然が共生できる地域社会づくりをめざします」という経営理念のもと、農業者をはじめ地域の皆様に利用される総合事業体として営農・経済事業や金融機能のみならず、環境・文化・福祉といった面も視野に入れた事業・活動を行っています。

なかでも、農業者等の経営支援を重点取り組み事項の1つとして位置づけ、農業技術・生産性向上に向けた各種研修会を開催するほか、契約栽培の拡大や直売所での農産物販売拡大、また地元量販店への出荷拡大等に取り組んでいます。

(2) 農業者等の経営支援に関する態勢整備

各営農経済センターに営農渉外係を配置するとともに、関係機関と連携し、農業者の農業技術・生産性向上に向けた相談・指導に応じています。

また、支店の融資担当者も農業や農業関連融資に関する知識を深め、農業者からの幅広い相談に応じることができるよう、日々研鑽しています。

(3) 農山漁村等地域活性化のための融資を始めとする支援

農業者の多様なニーズに 대응していくため、農業融資担当部門と営農経済部門とが連携し農業融資に関する訪問・資金提案活動を実施するとともに、各種プロパー農業資金に対応し、また農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取り扱いを通じて農業者の農業経営と生活をサポートしています。

(4) 担い手の経営のライフステージに応じた支援

農業後継者として新規就農者を対象に「かこがわ育農塾」を開催しています。また、卒業後の農業経営と生活をサポートしています。

(5) 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ担い手に適した資金供給手法の取り組み

農業融資については、営農経済部門と連携し、取引実績や青色申告書等を活用した経営分析を通じて、農業者に適した資金提案を行っています。また、営農に必要な営農ローン、加工・流通・販売に関する設備・運転資金としてアグリマイティー資金があります。

(6) 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域への貢献

「地域密着型支店づくり」による支店運営、農産物直売所の運営等を通じ、組合員、地域住民、消費者等のニーズを把握し、より身近な事業運営を行っています。

次代を担う地域の小学生等に対しては、農業への理解を促進するため、ちゃぐりんスクールをはじめ、ふぁ～みん食農支援金制度を通じた食農教育活動に取り組んでいます。

また、女性を対象とした「ふぁ～みんレディースカレッジ」、男性を対象とした「ふぁ～みん男ディカレッジ」を開講し、新しい学びと仲間づくりの場として、カルチャー教室を開催しています。

(7) 「経営者保証に関するガイドライン」への対応方針

経営者保証に関するガイドライン研究会（全国銀行協会及び日本商工会議所が事務局）が公表した「経営者保証に関するガイドライン」を踏まえ、当JAは、本ガイドラインを尊重し、遵守するための態勢整備を実施致しました。

当JAは、今後、お客さまと保証契約を締結する場合、また、保証人のお客さまが本ガイドラインに則した保証債務の整理を申し立てられた場合は、本ガイドラインに基づき、誠実に対応するよう努めてまいります。

6. 事業の概況（令和7年度上半期）

当ＪＡでは、第９次中期経営計画（令和５～７年度）の最終年度として、協同活動ハイライトにあったとおり、メインテーマである「安心」「笑顔」の種を蒔き、未来へ「つながる」実をつくろう」について実践しています。今後とも多様な組合員の声をＪＡ運営に反映し、地域農業の振興に努めるとともに、将来にわたって持続可能な経営基盤を確立・強化し、地域に根差したＪＡを目指します。

当ＪＡは堅実で健全な経営を基本理念として、次のことに取り組みました。その結果、令和７年９月末日現在の当期剰余金は８億２９百万円となり、前年比９２.８％となりました。

信用事業では、市場環境の変化を見据え、「出向くワンストップ」による相談活動で組合員・利用者の利便性を高め、多様化するニーズに応えるサービスの提供に努めました。また、持続可能な収益性と組織の健全性の確保のため、経営基盤の強化に取り組みました。この結果、貯金は６,７７２億８９百万円で期首対比９９.４％、４０億８１百万円の減少となりました。預金は４,７１２億９０百万円で期首対比９８.９％、４８億４２百万円の減少となりました。貸出金は１,８８８億２７百万円で期首対比１０１.８％、３３億８８百万円の増加となりました。有価証券は１２０億６４百万円で期首対比１０１.７％、２億１２百万円の増加となりました。

共済事業では、「ひと・いえ・くるま」の「３Ｑ活動」によるアフターフォローや普及活動を通じて組合員・利用者の満足度を高め、シェア拡大に努めました。また、「安全」と「安心」をお届けするために、組合員・利用者のニーズに寄り添った活動に取り組みました。この結果、長期共済保有ポイントは２,５０１万ポイントで期首対比１０１.７％となりました。

購買事業では、予約購買の強化や担い手農家に対する大型規格商品の推奨、大口奨励等の実施により、組合員の生産コストの低減を図りました。また、地域資源を活用した「ケイカル・転炉さい」の普及拡大を図り、環境保全型農業への体制づくりに取り組みました。この結果、購買品供給高は５億１６百万円、購買品取扱高（代理人取引）に係る購買手数料は８百万円となりました。

販売事業では、消費者に安定的に安全・安心な農産物を提供するため、直売所での新規登録出品農家の獲得に努め、出荷者を対象に農業安全使用講習会を開催しました。

また、特産品を活かした販売促進イベントを開催し、特産品の知名度の向上および来店客数の増加に取り組みました。この結果、米価の上昇による販売高の増加に加えて、キャベツ・ブロッコリー等の秀品率向上、ならびにスイートモーニングの有利販売により青果の主力３品目の販売高が前年対比１０１.７％となりましたが、畜産における販売頭数の大幅な減少と枝肉平均単価の下落、また、ふぁ～みんＳＨＯＰでの夏の高温の影響による葉菜類・果菜類の販売高減少に伴い、受託販売に係る販売手数料は１億３０百万円となり、５百万円の減少となりました。

地域貢献活動では、地域に密着したＪＡとして、支店ふれあい委員会を中心とした地域清掃活動や、ふれあいイベントを実施し、地域の皆様から好評を得ています。

また、「ふぁ～みん食農教育支援金制度」では、食農活動の輪を広げるとともに地産地消の啓発活動を展開しています。

ＪＡ兵庫南の経営理念である「組合員と共に繁栄し、安心・安全・安定を共有するＪＡづくりと、人・農業・自然が共生できる地域社会づくり」をめざして、全役職員が一致団結して協同の力を結集し、より健全な職場風土を築くと共に新たな目標をめざして、今後も新たな取り組みを展開していきます。

(1) 事業実績の推移

預金

(単位：百万円)

種 類	令和7年9月末	令和7年3月末	令和6年9月末
系 統 預 金	当 座 預 金	—	—
	普 通 預 金	349	49
	通 知 預 金	3,000	—
	別 段 預 金	603	603
	定 期 預 金	467,200	475,400
	小 計	471,152	476,052
系 統 外 預 金	138	80	241
合 計	471,290	476,133	481,929

有価証券

(単位：百万円)

種 類	令和7年9月末	令和7年3月末	令和6年9月末
国 債	2,000	1,677	1,591
地 方 債	3,570	3,486	3,745
政 府 保 証 債	458	486	521
特 殊 法 人 債	1,495	1,565	1,676
社 債	4,539	4,635	4,690
合 計	12,064	11,851	12,225

貸出金

(単位：百万円)

種 類	令和7年9月末	令和7年3月末	令和6年9月末
手 形 貸 付 金	77	78	81
証 書 貸 付 金	188,368	184,981	182,024
当 座 貸 越	381	379	400
金 融 機 関 貸 付	—	—	—
合 計	188,827	185,439	182,506
(うち金融再生法債権)	(371)	(378)	(369)

貯金

(単位：百万円)

種 類	令和7年9月末	令和7年3月末	令和6年9月末
当 座 性	当 座 貯 金	647	628
	普 通 貯 金	254,217	253,587
	貯 蓄 貯 金	1,347	1,281
	通 知 貯 金	—	—
	別 段 貯 金	85	458
	小 計	256,297	255,954
定 期 性	定 期 貯 金	412,365	415,564
	定 期 積 金	8,625	9,851
	小 計	420,991	425,415
合 計	677,289	681,370	682,048

長期・年金共済契約高・保有契約高

(単位：百万円)

種 類		令和7年9月末		令和7年3月末		令和6年9月末	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額
生命総合共済	終 身 共 済	50,737	294,770	50,973	301,449	51,168	306,521
	定期生命共済	471	4,047	458	4,012	461	3,978
	養老生命共済	10,030	35,927	10,310	38,015	10,714	40,256
	うちこども共済	(8,271)	(22,816)	(8,337)	(23,399)	(8,472)	(24,154)
	医 療 共 済	16,733	6,236	16,816	6,767	16,870	7,085
	が ん 共 済	6,206	422	5,853	462	5,821	469
	定期医療共済	511	1,009	539	1,033	562	1,075
	介 護 共 済	5,105	16,944	5,087	16,747	5,035	16,560
	認 知 症 共 済	477		486		496	
	生活障害共済	2,534		2,464		2,436	
	特定重度疾病共済	1,843		1,845		1,840	
	年 金 共 済	21,750	542	21,838	544	22,009	561
建 物 更 生 共 済		28,157	392,289	28,883	397,303	29,616	402,738
合 計		144,554	752,190	145,552	766,336	147,028	779,247

(注)「種類」欄は主たる共済種類ごとに記載し、金額は当該共済種類ごとに保障金額(生命系共済は死亡保障の金額(付加された定期特約金額等を含む))を記載しています。

医療系共済の入院共済金額保有高

(単位：百万円)

種 類		令和7年9月末		令和7年3月末		令和6年9月末	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額
医療共済	入院共済金額	16,733	49	16,816	55	16,870	57
	治療共済金額		1,382		1,254		1,202
がん共済	入院共済金額	6,206	28	5,853	33	5,821	33
	治療共済金額		117		—		—
定 期 医 療 共 済		511	2	539	2	562	2
合 計		23,450	81	23,208	91	23,253	93
			1,500		1,254		1,202

(注)「種類」欄は主たる共済種類ごとに記載し、金額は当該共済種類ごとに共済金額を記載しています。
なお、同一の共済種類に主たる共済金額が複数ある場合は、新たに欄を追加して記載するとともに、共済種類ごとの合計欄を記載しています。

介護共済・認知症共済・生活障害共済・特定重度疾病共済の介護共済金額保有高

(単位：百万円)

種 類		令和7年9月末		令和7年3月末		令和6年9月末	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額
介 護 共 済		5,105	20,714	5,087	20,130	5,035	19,807
認 知 症 共 済		477	1,143	486	1,172	496	1,221
生 活 障 害 共 済 (一時金型)		1,942	18,667	1,880	18,290	1,855	17,973
生 活 障 害 共 済 (定期年金型)		592	636	584	627	581	622
特定重度疾病共済		1,843	2,789	1,845	2,842	1,840	2,927

(注)「種類」欄は主たる共済種類ごとに記載し、金額は当該共済種類ごとに共済金額を記載しています。

年金共済の年金保有高

(単位：百万円)

種 類	令和7年9月末		令和7年3月末		令和6年9月末	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
年 金 開 始 前	16,162	10,693	16,310	10,799	16,623	10,996
年 金 開 始 後	5,588	3,214	5,528	3,159	5,386	3,078
合 計	21,750	13,907	21,838	13,958	22,009	14,074

(注) 金額は、年金年額を記載しています。

短期共済新契約高

(単位：百万円)

種 類	令和7年9月末		令和7年3月末		令和6年9月末	
	金額	掛金	金額	掛金	金額	掛金
火 災 共 済	21,972	19	48,824	42	22,236	19
自 動 車 共 済		457		952		455
傷 害 共 済	9,880	3	19,566	13	8,833	3
団体定期生命共済	—	—	—	—	—	—
定額定期生命共済	8	0	12	0	8	0
賠 償 責 任 共 済		0		0		0
自 賠 責 共 済		42		84		40
合 計		523		1,093		519

(注) 「種類」欄は主たる共済種類ごとに記載し、金額は当該共済種類ごとに保障金額（死亡保障又は火災保障を伴わない共済の金額欄は斜線。）を記載しています。

購買品供給・取扱高

(単位：百万円)

種 類	令和7年9月末	令和7年3月末	令和6年9月末
購 買 品 供 給 高	516	947	513
購 買 品 取 扱 高	115	357	169
合 計	631	1,304	682

販売品販売高

(単位：百万円)

種 類		令和7年9月末	令和7年3月末	令和6年9月末
受託販売	米 麦	414	985	380
	青 果	111	339	110
	畜 産	219	587	278
	ふあ～みん SHOP	848	1,708	882
	合 計	1,594	3,619	1,651
買取販売	米 麦	—	11	5
	青 果	22	40	20
	直 売 米	367	465	176
	ふあ～みんSHOP(その他)	209	398	216
	合 計	599	916	418

(2) 有価証券の時価情報

(単位：百万円)

保有区分	令和7年9月末			令和7年3月末		
	取得価格	時価	評価損益	取得価格	時価	評価損益
売買目的	—	—	—	—	—	—
満期保有目的	—	—	—	—	—	—
その他	14,999	12,064	△2,935	14,286	11,851	△2,434
合 計	14,999	12,064	△2,935	14,286	11,851	△2,434

- (注) 1. 時価は市場価格等によっています。
 2. 取得価額は、取得原価又は償却原価によっています。
 3. 満期保有目的の債券については、取得価額を貸借対照表価額として計上しています。
 4. その他有価証券については時価を貸借対照表価額としています。

(3) 金銭の信託の時価情報

該当する項目はありません。

(4) 預かり資産の状況

①投資信託残高（ファンドラップ含む）

(単位：百万円)

項 目	令和7年9月末	令和7年3月末
投資信託残高 (ファンドラップ含む)	4,989	3,948

(注) 投資信託残高（ファンドラップ含む）は「約定日基準」に基づく算出です。

②残高有り投資信託口座数

(単位：口座)

項 目	令和7年9月末	令和7年3月末
残高有り投資信託口座数	4,455	4,208

(5) 自己資本比率（単体）

令和7年9月末	令和7年3月末
14.88%	14.36%

7. 農協法に基づく開示債権の状況及び金融再生法開示債権区分に基づく債権の保全状況

(単位：百万円)

債権区分		債権額	保全額			
			担保	保証	引当	合計
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	令和7年9月末	324	101	1	221	324
	令和7年3月末	317	82	—	234	317
危険債権	令和7年9月末	46	15	28	1	44
	令和7年3月末	61	4	55	—	59
要管理債権	令和7年9月末	—	—	—	—	—
	令和7年3月末	—	—	—	—	—
三月以上延滞債権	令和7年9月末	—	—	—	—	—
	令和7年3月末	—	—	—	—	—
貸出条件緩和債権	令和7年9月末	—	—	—	—	—
	令和7年3月末	—	—	—	—	—
小計	令和7年9月末	371	116	29	223	369
	令和7年3月末	378	87	55	234	377
正常債権	令和7年9月末	188,532				
	令和7年3月末	185,131				
合計	令和7年9月末	188,903				
	令和7年3月末	185,510				

(注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権をいいます。

2. 危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権をいいます。

3. 要管理債権

4. 「三月以上延滞債権」に該当する貸出金と5. 「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金の合計額をいいます。

4. 三月以上延滞債権

元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権及び危険債権に該当しないものをいいます。

5. 貸出条件緩和債権

債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権及び三月以上延滞債権に該当しないものをいいます。

6. 正常債権

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記に掲げる債権以外のものに区分される債権をいいます。



2025（上半期）ディスクロージャー／JA 兵庫南
令和 7 年 12 月発行
兵庫南農業協同組合
発行責任者 代表理事組合長 野村 隆幸
〒675-0066 兵庫県加古川市加古川町寺家町 621 番地
TEL 079-424-8001（代）
FAX 079-424-1134
<http://www.ja-hyogominami.com/>